

★最新介護医療情報★

オミクロン「BA・5」、主な5変異を網羅 …さらに感染力高いタイプ登場の可能性も (読売新聞社 2022.7.19 配信)

新型コロナウイルスの感染急拡大の原因となっているオミクロン株の新系統「BA・5」は、これまでに流行したアルファ株やデルタ株などに特徴的だった計5か所の変異を全て備えているという。専門家はBA・5について「感染力や免疫から逃れる能力が、さらに高まっている可能性がある」と警戒している。

新型コロナウイルスの表面には、人間の細胞に侵入するためのたんぱく質の突起がある。ワクチン接種で作られる抗体は、この突起を認識することで感染などを防ぐ。変異により突起の形が変われば、抗体に認識されにくくなる。

東京農工大の水谷哲也教授(ウイルス学)によると、細胞に侵入しやすくなったり、抗体から逃れやすくなったりするとみられる突起の主な変異は、これまでに5か所特定されている。

2021年春の第4波で主流だったアルファ株はこのうちの1か所、同年夏の第5波のデルタ株は2か所が変異していた。一方、第6波で最近まで主流だったオミクロン株のBA・2では4か所に増加。BA・4とBA・5はさらに「L452R」という変異が加わり、5か所全てがそろったという。

厚生労働省の助言機関によると、BA・5はBA・2の1・27倍の勢いで感染が広がる。水谷教授は「感染者が増えればウイルスが変異する機会も増える。今後さらに感染力が高まった新たな株が登場する恐れもある」と指摘している。

新型コロナ：新型コロナ マスクで熱中症リスクに「根拠なし」 救急医学会など公表 (毎日新聞社 2022.7.16 配信)

日本救急医学会などは15日、新型コロナウイルス流行下の熱中症診療に関する手引を公表し、「マスクの着用が熱中症のリスクとなる根拠はない」と明らかにした。マスクを外すことで息苦しさは軽減されても熱中症予防にはならないとして、主に部屋の換気やエアコンの活用、水分補給などを行うよう呼びかけた。

学会などは、熱中症と新型コロナとの関連を調べた国内外の文献を分析。その結果、健康な若年成人の場合、マスクを着用した状態で、暑い中での1時間程度の軽い運動や、20分のランニング程度では、着用していない場合と比べて運動後の体温の上昇に違いはみられなかったという。ただ、高齢者や子ども、既往症がある人に関するデータはなく、注意が必要という。

学会の横堀将司・日本医大教授は「熱中症予防のためにマスクを外しなさい」というメッセージは、国民をミスリードする可能性がある。場面に応じて着用を判断し、(感染対策との)両立を考えてほしい」とした。

